# 第１章　いまだにポピュリズムの時代なのか

## ――2008年大阪府知事選データによる分析――

岡本　哲和

目　次

１．はじめに
２．2008年大阪府知事選に至る経緯
３．データの概要
４．府知事選挙に対する有権者の関心と態度
５．だれが橋下に投票したのか
６．ポピュリズムと投票行動
７．投票行動の規定要因に関する重回帰分析
８．おわりに

## １．はじめに

2008年１月27日に行われた大阪府知事選挙で、橋下徹候補は183万2857票を獲得して当選した。次点の熊谷貞俊候補には、80万票以上の差をつけた。圧勝といってよい。知事就任後も、これまで橋下は比較的高い支持率を維持してきている。

政治家としての橋下は、小泉純一郎元首相と似ている点があるといわれる。第１は、メディアを利用するのが巧みであるという点である(石澤 2008：16)。小泉はメディアを通じて自らの好ましいイメージを流布させることの重要性を認識し、そしてそれをうまく行った数少ない首相の一人である(蒲島・スティール 2008：176、内山 2007：５－７、Kabashima and Steel 2007：97)。橋下もまた、

タレントとしての経験によってメディアの効果的な使い方を熟知しているといわれる。とりわけ、ワンセンテンスで印象的なフレーズをメディアを通じて投げかけて(たとえば、「PTAはいらない」や「大阪府職員は破産した会社の従業員」など)、それによって関心を引きつける手法は、小泉と共通している(産経新聞大阪社会部 2009：75-77)。

第2は、特定の相手を「悪」もしくは「敵」と位置づけた上で、自らをそれに対して戦う「善」の立場に置き、善悪二元論の構図をつくりだすという政治手法を用いている点である。小泉がまず「悪」としたのは既得権を擁護する官僚や特殊法人であり、その象徴が郵政事業であった(大嶽 2003：124-125)。さらに、改革を自民党議員が阻止しようとする場合には、「小泉が自民党をぶっつぶします」と言い放って、自身が進める改革路線に対する自民党内の批判派をも悪の立場に置いた。一方、橋下は大阪府庁職員および府の出資法人を自らが戦うべき相手と位置づけ、「公務員」対「民間人」という対立の構図をつくりだし、自身を民間人の代表とすることによって一般府民からの支持を得ようとしている。

このように、善悪二元論を前提として、普通の人々を代表するリーダーが「悪＝エリート」に挑むヒーローとしての役割を演じるという政治スタイルを、大嶽(2003、2006)はポピュリズムと呼んだ。2001年4月から2006年9月まで続いた小泉内閣が、最近の他の内閣と比べて比較的高い支持率を得てきた背景には、ポピュリズム的政治手法に対する有権者からの支持が存在していたと考えられる(池田 2004)[1)]。

大阪府知事選における橋下支持の基底にも、同様にポピュリズムへの支持が存在していたのだろうか。本稿は、府知事選後に実施した調査に基づいて投票行動の規定要因を明らかにすることにより、この問いに一定の回答を与えることを目

1)ただし、池田(2007：22-67)は、小泉首相に対する支持が自民党への支持を押し上げるという「小泉効果」は、首相の在任期間中に一貫して存在していたわけではないと指摘している。山田(2005)もまた、小泉に対する評価と自民党に対する評価が独立したものであると指摘している。





的とする。これに関連して、2007年東京都知事選における有権者の投票行動を取り扱った丸山他(2008)は、石原慎太郎候補へ投票した人はポピュリスト的心情を強く持っているとの前提を置いた上で、石原への投票の規定要因を分析することによってポピュリズム的指向がどのような要因によって促進されるのかを明らかにしようとしている。それに対して本稿は、「橋下への投票者はポピュリズム的指向を持っていた」との前提をまず置くのではなく、ポピュリズム的指向の程度を測るための指標を作成した上で、それが橋下への投票に対して影響を及ぼしていたかどうかを明らかにしようとする。

構成は以下のとおりである。まず、2008年府知事選に至る経緯について概観したあと、その際にわれわれが実施した調査の概要を説明する。次に、どのような要因が有権者における投票先の決定に影響を及ぼしていたかについて、2変数関係の分析を中心に検討を加えていく。最後に重回帰分析を用いて、より厳密に投票の規定要因を明らかにすることによって、ポピュリズムと投票との結びつきについて考察を行いたい。

## 2．2008年大阪府知事選に至る経緯

2008年の大阪府知事選に至る経緯を簡単に説明しておきたい。2007年10月の段階では、太田房江大阪府知事は3選出馬の意向を表明していた。だが、太田知事が府の公共事業と関わりの深い経営者との懇談会に何回も出席して、高額の講演料を受け取っていたことが明らかになる。それにより、11月29日には民主党大阪府議団が太田知事を支持しない方針を固めた。翌30日には、公明党府議団と連合が太田知事を推薦しないことを決定、さらに12月1日には自民党大阪府連が不支持を決定する。太田知事の支持母体であり、関西の経済界や連合大阪などによって構成された政治団体の「21世紀大阪がんばろう会」も、出馬を断念するよう説得を進める方向を明らかにした。結局、太田知事は「今の状況では出馬は不可能と判断した」と、12月3日に立候補断念を表明した。

これを受けて、自民・公明・民主の与党3会派では、次回の知事選挙を自公民相乗りで行うように調整が進められていた。2007年には、東大阪市と大阪市の市長選がすでに行われている。また、近づく衆議院選挙への準備も行わねばならない。このような事情で、特に自民・公明の府議団の間では、次回の府知事選は3党の相乗り候補を担いで楽に戦いを進めたいとの要望が高まっていた[2)]。

民主党は水面下では、平野博文府連代表を中心に独自の候補者選考を行っていた。12月4日には、民主党の鳩山由紀夫幹事長がテレビ放送で、大阪府知事選に独自候補を擁立する考えであるとの発言を行っている。

その時期に、自民党が弁護士でタレントの橋下徹を擁立する動きがあるとの報道がなされた。独自候補を模索する民主党の動きに疑心暗鬼を募らせていた自民党にとっては、橋下が立候補の意向を表明したことは「渡りに船」であったといわれる[3)]。橋下は、自らが出演する番組との契約等を理由として、いったんは立候補を完全否定する。だが実際には、太田知事が立候補断念を表明した日、橋下は作家の堺屋太一とともに古賀誠・自民党選挙対策委員長の元を訪れ、自民および公明両党の推薦を受けて大阪府知事選に立候補したいと依頼していた。それとともに橋下からは、自民党府議団幹部に向けても、立候補したいとの連絡が行われた[4)]。12月11日には、記者会見を行うことが橋下から報道各社に連絡され、翌12日に大阪府庁で行われた会見において、同氏は大阪府知事選挙への立候補を表明した。

自民党府連は12月23日の拡大全体会議で、橋下への推薦を決定した。自民党から公明党に対しては、橋下を推薦するように働きかけが行われたが、同氏がこれまでにマスコミなどで行った発言に対する公明党支持者の批判も強く、結局のところ推薦ではなくそれよりも弱い支持とすることで落ち着いた。

一方、民主党は、大阪大学大学院工学研究科教授でシステム・制御工学を専門

2）『日本経済新聞』2007年12月4日。
3）『朝日新聞』2007年12月12日。
4）『朝日新聞』2007年12月12日。





とする熊谷貞俊を擁立する方針を示した。民主党が熊谷を選んだ理由は、大阪大学を拠点として大阪を「サイエンスの街」にし、それによって優れた人材を呼び込むことにより中小企業の活力を高めたい、との思いがあったからである。また、タレントとして有名な橋下に対して「まじめな人」を対立候補に据えることにより、有権者に強くアピールできるとの計算もあったといわれる[5)]。同党は、12月18日に常任委員会で熊谷への推薦を決定する。同氏に対しては、国民新党および連合大阪も推薦を行うことを決定した。

共産党は、早くから弁護士の梅田章二への推薦を決めていた。また、杉浦清一と高橋正明も立候補したが、実質的は自民・公明が推す橋下と民主・国民新党が推す熊谷の一騎打ちの構図になった。

## 3．データの概要

本研究では、基本的にわれわれが実施した有権者調査のデータを用いて分析を進めていく。

有権者調査の概要について説明しておきたい。調査期間は、投票日翌日の2008年1月28日およびその翌日の29日の2日間である。回答者がインターネットを通じて、ウェブサイト上に用意された質問用紙に回答するという形で実施された[6)]。サンプルの抽出にあたっては、平成17年度における国勢調査の結果を参考として、大阪府の人口構成割合に従って世代ごとに人数の割付を行った。結果として、1239人から有効な回答を得ることができた[7)]。以下では、このデータを用いて分析を行う。

5）『朝日新聞』2007年12月12日。
6）インターネットを用いた調査の問題点については、谷口・谷口（2008）および Dillman, Smyth, and Christian（2008：440-447）を参照のこと。
7）目標としたサンプルにおける世代別の構成は、20才代が17パーセント、30才代が20パーセント、40才代が17パーセント、50才代が19パーセント、60才代以上が27パーセントである。実際に得られたサンプルにおける世代別人数の割合は、20才代が17.02パーセント、30才代↗

最初に、実際の投票結果とわれわれのデータとの比較を行っておきたい。2008年大阪府知事選の投票率は48.95パーセントであった。これに対して、調査結果では、75.54パーセント(1239人中936人)が投票したと回答している。一般的には、世論調査で投票したと答える人の割合は、実際の投票率よりも高くなる傾向がある。ここでもこの傾向が現れているが、それがやや高目に出ているようである。

性別ごとに見れば、われわれの調査では男性の79.18パーセント(658人中521人)、女性の71.43パーセント(581人中415人)がそれぞれ投票したと答えた。実際には、男性の投票率は47.69パーセント、女性は50.11パーセントである。投票率の高さが性別で逆転している点に、われわれのデータの偏りが現れている。投票先に関しても、検討してみたい。表1は、実際の選挙における各候補者の得票率と、調査データにおける投票先の割合とを比較したものである。調査データでは、橋下徹へ投票したと答えた人の割合が実際よりも多くなっていること、そして梅田章二へ投票したと答えた人の割合が少ないことがわかる。だが、全体的に見れば、投票先に関しては、調査データは実際の投票結果をほぼ反映しているといえる。

表1　実際の選挙と調査データの比較：投票先

| | 実際の得票率(%) | 調査データでの投票先割合(%) |
|---|---|---|
| 橋下　徹 | 54.02 | 58.09 |
| 熊谷貞俊 | 29.45 | 30.25 |
| 梅田章二 | 15.28 | 10.89 |
| 高橋正明 | 0.65 | 0.44 |
| 杉浦清一 | 0.59 | 0.33 |

N＝909（投票先を「忘れた」と回答した人はのぞく）
注）四捨五入のため、合計は100とならない。

↘が20.01パーセント、40才代が20.01パーセント、50才代が18.96パーセント、60才代以上が26.95パーセントとなった。サンプルにおける社会経済的属性の概要については、章末の「資料：2008年大阪府知事選に関する有権者調査の結果概要」を参照のこと。なお、調査の実施は、株式会社マクロミルに委託した。





## 4．府知事選挙に対する有権者の関心と態度

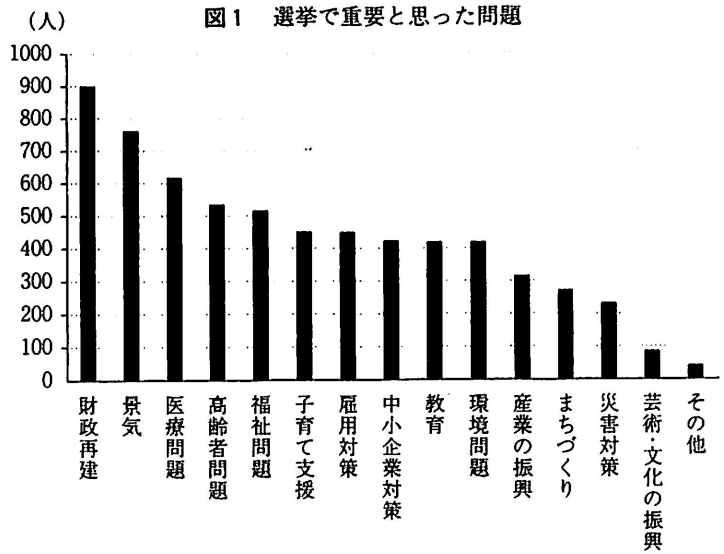
2007年の大阪府知事選挙に対して、全体として有権者はどのような考え方を持っていたのか。投票行動について分析を行う前に、その概要を調査データから示しておく。

選挙自体への関心については、「非常に関心を持った」と回答した割合が46.00パーセント(1239人中570人)、「多少は関心を持った」との回答が46.16パーセント(1239人中572人)であった。あわせて90パーセント以上の人が、府知事選に何らかの関心を持っていたことになる。太田前知事の突然の不出馬表明、そしてマスメディアを通じて知名度が高かった橋下の立候補などが、このような高い関心に結びついた一因であると推測できる。ただし、候補者の知名度や話題性だけが選挙への関心をもたらしたとはいえない。候補者によるマニフェストを目にしたかどうかという質問に対しては、66.21パーセントがいずれかの候補のマニフェストを目にしたと答えている(1181人中782人。「マニフェストを目にしたか、しなかったかは忘れた」と答えた人をのぞく)。

選挙で重視した問題については、「大阪府知事選挙では、あなたはどのような問題が重要であると思いましたか」という質問への回答結果を図1で示している(複数回答)。最も多くの人が重要な問題としてあげたのは「財政再建」(897人)であった。その次に多かったのは「景気」(760人)であり、「医療問題」(616人)「高齢者問題」(533人)「福祉問題」(514人)「子育て支援」(451人)がそれに続く[8)]。明るい選挙推進協会が2007年参院選時に有権者に対して行った調査では、選挙で考慮した問題として、年金問題をあげた人が全体の69.7パーセント(複数回答)と

8）ただし、われわれが行った質問が、「争点態度」ではなく「争点選択」を問うものであったことについては留意すべきである。たとえば、「財政再建」が重要であると回答した人には、「支出を切り詰めて財政の再建を目指すべきである」という考えの人とともに、「財政再建を目的として支出を切り詰めるべきではない」という考えを持つ人も含まれている可能性がある(小林 2008：35)。

図1　選挙で重要と思った問題




一番多かった(財団法人明るい選挙推進協会 2008)。だが、年金問題は基本的に国に関わる問題であり、地方選の争点と単純に比較できない。そこで、同調査において年金問題に次いで考慮した人が多かった問題を見れば、「医療・介護」(48.8パーセント)、「税金問題」(37.6パーセント)「高齢化対策」(34.6パーセント)、そして「景気・雇用」(27.7パーセント)という順になっている。医療や高齢者問題などの広い意味での福祉に関わる問題を多くの人が考慮している点、そして景気問題への関心が高い点は、われわれの府知事選調査と共通している。その一方で、府知事選調査では「財政再建」に対する関心がきわめて高かったことに対して、参院選調査で同問題を考慮した人は12.6パーセントであった。さほど低い数字とはいえないものの、「教育問題」(22.1パーセント)や「環境・公害問題」(13.4パーセント)の下にきている。大阪府は5兆円の府債残高を抱えて、2006年度決算では都道府県で唯一の赤字となった。このような危機的ともいえる財政状況が、府民の財政再建に対する関心を特に高めたと考えられる。



## 5．だれが橋下に投票したのか

2008年大阪府知事選では、どのような人が橋下候補に投票したのか。ここでは、個人的属性、政治的態度の2つの点から検討を行う。

### 5.1　個人的属性

最初に、性別で見てみよう。橋下に投票したと回答した528人のうち、女性が265人(50.18パーセント)と半分を超えていた。これに対して熊谷では、投票したと答えた人の68.36パーセント(275人中188人)、そして梅田候補では53.53パーセント(99人中53人)が男性である。熊谷候補への支持層に男性が多かったことが際だっている。

年齢については、5つのカテゴリー(20代、30代、40代、50代、60才以上)に分類した上で、それぞれの投票先を表2で示した。20代および30代では、橋下がほぼ7割の高い支持を得ている。しかし、40代以上では、年齢が上がるにつれて

表2　年代ごとの投票先

| | 橋下　徹 | 熊谷貞俊 | 梅田章二 | 計 |
|---|---|---|---|---|
| 20-29才 | 75 | 22 | 11 | 108(人) |
| | 69.44% | 20.37% | 10.19% | 100% |
| 30-39才 | 114 | 35 | 13 | 162(人) |
| | 70.37% | 21.60% | 8.02% | 100% |
| 40-49才 | 96 | 46 | 15 | 157(人) |
| | 61.15% | 29.30% | 9.55% | 100% |
| 50-59才 | 93 | 57 | 29 | 179(人) |
| | 51.96% | 31.84% | 16.20% | 100% |
| 60才以上 | 150 | 115 | 31 | 296(人) |
| | 50.68% | 38.85% | 10.47% | 100% |

N＝902.

支持が低下する傾向が見られる。対照的なのは、熊谷である。回答者の年齢が上がるほど、投票したと答えた割合が大きくなっている。2007年東京都知事選挙では、年齢が上がるにつれて、石原慎太郎へ投票した割合が増えるという傾向が見いだされている(丸山他 2008：90)。自民党が推す知事候補という点では石原と橋下は同じだが[9]、年齢の影響に関しては、むしろ石原と民主党が推す熊谷との間に共通するところがある。

学歴別では、どの学歴カテゴリーにおいても橋下への投票が最も多いことが表3からわかるが、大学(4年制)卒ではその割合が57.10パーセントと最も少ない。熊谷候補への投票では大学(4年制)卒が最も高い割合になっており、ここでも対照的な結果が示されている。先に触れた都知事選の調査では、学歴が下がるほど石原へ投票した割合が増えていた。逆に、民主党が推す浅野史郎では、学歴が高くなるほどその割合が増える(丸山他 2008：10)。この点については、東京と大阪で自民および民主それぞれが推す候補の間に共通する傾向が見いだされる。

最後に、居住地については回答者を大阪市居住者とそれ以外の2つのカテゴリーに分類した上で、投票先との関連を検討した。大阪市居住者の投票先は、橋下が60.36パーセント、熊谷が28.36パーセント、梅田が11.27パーセントとなった。

**表3　学歴ごとの投票先**

| | 橋下　徹 | 熊谷貞俊 | 梅田章二 | 計 |
|---|---|---|---|---|
| 中学校卒 | 16 | 3 | 3 | 22(人) |
| | 72.73% | 13.64% | 13.64% | 100% |
| 高等学校卒 | 157 | 81 | 35 | 273(人) |
| | 57.51% | 29.67% | 12.82% | 100% |
| 高専・短大・専修学校卒 | 110 | 43 | 26 | 179(人) |
| | 61.45% | 24.02% | 14.53% | 100% |
| 大学(4年制)卒以上 | 237 | 144 | 34 | 415(人) |
| | 57.11% | 34.70% | 8.19% | 100% |

N＝889.　注）ただし、中退は卒業と見なしている

9）石原は自民党の推薦を返上したが、自民党は推薦候補と同様の取り組み方で石原を支援した。





これに対し、大阪市以外の居住者では、橋下への投票が57.73パーセント、熊谷が31.41パーセント、梅田が10.85パーセントという結果になっている(いずれも四捨五入のため、合計は100パーセントとなっていない)。橋下と梅田が大阪市内で多くの支持を得る傾向がある一方で、熊谷は大阪市以外での支持が比較的多くなっている。しかし、カイ二乗検定では10パーセント水準においても居住地と投票先との有意な関連は見いだせなかった[10]。

### 5.2　政治的態度

政治的態度については、支持政党、前回2004年府知事選挙での投票先、そして太田房江府政への評価の3つの点に注目する。

支持政党から見ていこう。まず、「あなたはふだん、どの政党を最も支持していますか(ひとつだけ)」との質問に対する回答を、支持している政党と考える。それと橋下、熊谷、梅田の3候補への投票との関連を示したのが表4である(政党支持について、「わからない」との回答は除外している)。予想されるとおり、橋下へは自民党および公明党支持者からの、熊谷へは民主党支持者からの、そして梅田へは共産党支持者からの投票がそれぞれ多くなっている。特に自民党および公明党支持者層では、8割以上が橋下へ投票したと答えている。

それに対して民主党支持者では、熊谷への投票は相対的に最も多くなっているものの、64.00パーセントにとどまる。橋下へ投票したと答えた人も3割を超えている。また、「支持政党なし」と答えた層でも、橋下への投票は6割を超える[11]。

ただし、ここで用いた「あなたはふだん、どの政党を最も支持していますか」との質問は支持政党をたずねるときによく用いられるものであるが、一時的ではない安定した特定の政党への心理的帰属感を明らかにするためには、必ずしも適

10）結果は省略するが、居住地を大阪市および堺市の政令指定都市とそれ以外に分割した分析でも、投票先については同様の傾向が見いだせた。

11）丸山他(2008：90)は、2007年東京都知事選では、支持政党なし層において石原と浅野への投票がほぼ拮抗していたとの調査結果を示している。

**表4　普段の支持政党と投票先**

| | 橋下　徹 | 熊谷貞俊 | 梅田章二 | 合計 |
|---|---|---|---|---|
| 自民党 | 159 | 16 | 6 | 181(人) |
| | 87.85% | 8.84% | 3.31% | 100% |
| 民主党 | 64 | 128 | 8 | 200(人) |
| | 32.00% | 64.00% | 4.00% | 100% |
| 公明党 | 28 | 5 | 0 | 33(人) |
| | 84.85% | 15.15% | 0.00% | 100% |
| 社民党 | 4 | 4 | 3 | 11(人) |
| | 36.36% | 36.36% | 27.27% | 100% |
| 共産党 | 5 | 7 | 30 | 42(人) |
| | 11.90% | 16.67% | 71.43% | 100% |
| 国民新党 | 0 | 1 | 1 | 2(人) |
| | 0.00% | 50.00% | 50.00% | 100% |
| その他の政党 | 2 | 3 | 1 | 6(人) |
| | 33.33% | 50.00% | 16.67% | 100% |
| 支持政党なし | 218 | 94 | 42 | 354(人) |
| | 61.58% | 26.55% | 11.86% | 100% |

N＝829　注）パーセントの合計については四捨五入のため合計が100%となっていないケースがある

切であるとはいえない(三宅 1989：110)。そこで、支持政党のもう一つの指標を作成するために、過去の国政選挙における投票行動のデータを用いる。具体的には、2005年衆院選での小選挙区および比例代表、そして2007年参院選での選挙区および比例代表の計4回の投票機会において、すべて同じ政党(の候補者)に投票したと回答した人を、その政党の支持者と見なすこととする。これは、比較的強めの政党支持態度を示すものと考えられる。この指標を用いた支持政党と、知事選での投票先との関係を示したものが表5である(自民、民主、公明、社民、共産以外の政党もしくは候補者に投票したケースは除外している)。そこから明らかなように、ふだんの支持政党をたずねたものとほぼ同様の傾向が見いだされた。自民党支持層で9割近く、そして公明支持層で9割以上が橋下へ投票したと回答



**表5　固い政党支持と投票先**

| | 橋下　徹 | 熊谷貞俊 | 梅田章二 | 計 |
|---|---|---|---|---|
| 自民党 | 142 | 14 | 4 | 160(人) |
| | 88.75% | 8.75% | 2.50% | 100% |
| 民主党 | 68 | 142 | 17 | 227(人) |
| | 29.96% | 62.56% | 7.49% | 100% |
| 公明党 | 29 | 2 | 0 | 31(人) |
| | 93.55% | 6.45% | 0.00% | 100% |
| 社民党 | 4 | 4 | 2 | 10(人) |
| | 40.00% | 40.00% | 20.00% | 100% |
| 共産党 | 9 | 6 | 38 | 53(人) |
| | 16.98% | 11.32% | 71.70% | 100% |

N＝481　注）パーセントの合計については四捨五入のため合計が100%となっていないケースがある

している。民主支持層でも、3割が橋下に投票している。それに対して、熊谷は民主支持層の約6割からしか投票を得られなかった。

最後に、2004年府知事選挙での投票先と2008年選挙の投票先との関連について検討する(表6参照。2004年でだれに投票したかを忘れたと回答したケースは除外している)。2004年知事選は、自民・民主・公明・社民が推薦する現職の太田房江に対して、共産党が推薦する梅田章二および前参議院議員の江本孟紀が挑戦する形となった。結果は、太田が約155万票を獲得し、2位の江本および3位の梅田を大きく引き離して再選を決めた。2004年選挙で太田に投票したと答えた人のうちでは、6割以上が橋下に投票している。太田以外への投票に関しては、それらは基本的に現職批判の票であったと見なせるだろう。2004年選挙では、その票を江本と梅田が分け合う形(前者が67万717票、後者が50万5167票)となった。われわれの調査結果では、2004年における江本への投票者のうち、6割近くが橋下へ投票したと答えている。太田への批判票を、熊谷はうまくまとめきれなかったと考えられる。梅田への投票について見れば、2004年における投票者のうち、2008年も同候補に投票したと答えたのは41.6パーセントに過ぎない。それ以上に

**表6　2004年と2008年の投票先**

| | | 2004年府知事選投票先 | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| | | 太田房江 | 梅田章二 | 江本孟紀 | それ以外 |
| 2008年府知事選投票先 | 橋下　徹 | 187 | 18 | 43 | 4 |
| | | 64.71% | 15.93% | 58.90% | 80.00% |
| | 熊谷貞俊 | 89 | 48 | 26 | 1 |
| | | 30.80% | 42.48% | 35.62% | 20.00% |
| | 梅田章二 | 13 | 47 | 4 | 0 |
| | | 4.50% | 41.59% | 5.48% | 0.00% |
| | 合計 | 289(人) | 113(人) | 73(人) | 5(人) |
| | | 100% | 100% | 100% | 100% |

N＝480

熊谷に流れるという結果となっている。2004年知事選では、共産党支持というよりも現職批判という理由で梅田に投票した人が多かったと推測できる。

## 6．ポピュリズムと投票行動

民主党の鳩山由紀夫幹事長は、2007年12月17日に開かれた民主党府連主催の政治資金パーティの場で、「ポピュリズムに大阪を任せてはならない。知性に大阪の未来を任せようではないか」と発言した(『朝日新聞』夕刊、2007年12月18日)。ここでは橋下が、「ポピュリズム」を代表するものとして捉えられていることは明らかである。それに対して民主党が推した熊谷はシステム・制御工学を専門とする大阪大学大学院教授であり、「知性」もしくは「専門性」を代表する存在として対置されている[12)]。

ここでは、ポピュリズムと投票行動との関連について検討する。明らかにすべき問題は、有権者におけるポピュリズムへの支持が、橋下への投票と結びつきを持っていたかどうかということである。

注意すべきは、ポピュリズムという語が多義的に用いられてきたという点である(松本 2008：60)。上述の鳩山の発言は、中身よりもうわべのイメージを強調する大衆扇動的な存在、というぐらいの意味合いでその語を用いたのだと推測できる。また、先述のように、ポピュリズムは善悪二元論の構図を強調する政治スタイルを意味する語としても使われる。いずれにせよ、ポピュリズムを支える感情の基底にあるのは、既存の体制に対する批判である(Barr 2099：31)。特にその批判対象となるのは、エリートである専門家集団である。現在では、その専門家集団の中には政治家や官僚が含まれる(大嶽 2006：2)。リーダーはそれに対する攻撃を行うことによって、しばしば大衆からの支持を調達することに成功する。

このような理由から、有権者における既存の体制への信頼度を、ポピュリズムへの指向の度合いを測定するための指標として用いることにする。われわれの調査には、「あなたは次にあげるような組織や機関を、どれぐらい信用していますか。あなたの考えに最も近いものを選んでください」との質問が含まれる。これに対する回答の選択肢は、「まったく信頼していない」「あまり信頼していない」「まあ信頼している」「非常に信頼している」の4点尺度で構成されている。上記の質問を、「国の政府」「国会」「大阪府庁」「大阪府議会」「自分の住んでいる市(町・村)の役所」「自分の住んでいる市(町・村)の議会」の6つを対象として行ったときの回答を加算(「まったく信頼していない」を4点、「あまり信頼していない」を3点、「まあ信頼している」を2点、「非常に信頼している」を1点)して公的機関に対する信頼度の指標を作成し、それをポピュリズム的指向の代理変数として分析に用いる。クロンバックのアルファは0.901であり、尺度としての信頼性はきわめて高いといえる。なお、得点が高くなるほど、政府や国会などへの信頼が低くなる。すなわち、ポピュリズム的指向性は高くなることになる。最小値は8、最大値は24であり、平均は18.62、中央値は12となっている。

さらに、現在ではポピュリズムとネオリベラリズムとが、しばしば共存する形

12) 2007年東京都知事選挙では、石原対浅野の対立構図は、ポピュリズムとテクノクラシーの対峙(いうまでもなく、前者を代表するのが石原であり、官僚出身で改革派知事の一人として知られた浅野が後者を代表する)であるとも認識された(丸山他 2008：81)。

で現れると指摘されている(Weyland 1999)。Kitschelt (1995)は、特に右派ポピュリストが市場リベラリズム的な政策を訴えるのは、それが政治エリートの既得権益や腐敗への批判につながっているからと指摘する。

そこで、ネオリベラリズムに対する指向が、府知事選における投票とどのように関係していたのかについて検討する。ネオリベラリズム的指向についての指標としては、われわれの調査における以下の3つの質問に注目した。第1は、「所得の平等について、あなたの考えを教えてください」という質問(以下、「所得の平等」についての質問と略記)である。回答については、「個人の努力がよりむくわれるようにするために、人によって所得に差があっても当然だ」を10点、「人々の所得は、より平等であるべきだ」を1点として、1から10までの10点尺度で自分の考えに一番近いものを選ぶように求めた。第2の質問は、「政府の役割について、あなたの考えを教えてください」(以下、「政府の大きさ」についての質問と略記)というものである。これについては、「人にとって必要なものは、個人が自分自身で手に入れるようにすべきである」を10点、「人にとって必要なものを与えるために、政府はより大きな役割を果たすべきである」を1点としている。第3は、「社会における競争について、あなたの考えを教えてください」という質問(以下、「社会での競争」についての質問と略記)である。「競争があることは、社会にとって望ましい」を10点、「競争は社会に悪い影響を与える」を1点としている[13]。政府の大きさについての質問および競争についての質問においても、所得の平等についての質問と同様に、10点尺度で自分の考えに一番近いものを選ぶように求めている[14]。

以上のように測られたポピュリズムおよびネオリベラリズム的な指向が、投票行動とどのように結びついていたかを検討しよう。まず、ポピュリズムから見て

13) 調査に用いられた質問フォームでは、「競争があることは、社会にとって望ましい」が1点、「競争は社会に悪い影響を与える」が10点となっているが、分析にあたっては値を入れ替えて、競争を好ましいと思うほどポイントが高くなるようにした。

14) 3つの質問に対する回答状況の基本統計は、表で示すとおりである。↗





いきたい。橋下への投票者における平均値は18.06、熊谷への投票者では18.89、そして梅田への投票者では19.31であった。役所や国会、地方議会などの公的機関に対する信頼が最も低いのが、梅田への投票者である。橋下と熊谷への投票者を比較すれば、前者の方が公的機関への信頼度が高いことになる。マン・ホイットニー検定でも、両者の間には1パーセント未満の水準で有意な差があることが確かめられている。予想されたのは、橋下への投票の背景にはポピュリズムへの共感が存在するという結果である。あくまで2変数間の関係のみに注目した分析によるものであるが、それに反する結果が見いだされることになった。

次に、ネオリベラリズムとの関係に話を進めたい。表7は、3つの質問に対する回答の平均値を投票先別に示したものである。どの質問においても、梅田への投票者が最も低く、次いで熊谷への投票者、そして最も高いのが橋下への投票者となっている。すなわち、橋下への投票者層で、もっともネオリベラリズム的な指向が強くなっている。知事就任前の橋下はマスメディアなどをとおして、社会におけるいっそうの競争を肯定する発言を繰り返している(一ノ宮 2008：22)。また、橋下のマニフェストでは、府政全事業をゼロから見直すことが特に強調さ

**表7　投票先とネオリベラリズム的指向**

| | 所得の平等 | 政府の役割 | 社会の競争 |
|---|---|---|---|
| 橋下　徹 | 7.43 | 5.21 | 7.31 |
| 熊谷貞俊 | 6.97 | 4.96 | 7.09 |
| 梅田章二 | 6.70 | 4.90 | 4.90 |

N＝858.　注）数字は平均値

↘

ネオリベラリズム的指向に関する質問についての基本統計

| | 平均 | 標準偏差 | 中央値 | 最大値 | 最小値 |
|---|---|---|---|---|---|
| 所得の平等 | 7.20 | 2.10 | 7 | 1 | 10 |
| 政府の大きさ | 5.10 | 2.35 | 5 | 1 | 10 |
| 社会における競争 | 7.19 | 1.78 | 7 | 1 | 10 |

N＝1156

れている。より具体的には、第1に府が出資している法人はすべて見直して、可能な場合は法人化すること、第2に企業が進出可能な立地条件にあるもの以外の府が保有する土地および施設は売却すること、第3に行政側には「民間のような経営能力がない」ことを前提として、自らが実施することが無駄な事業については売却・民営化を目指すことなどが目標として掲げられている。できるかぎり小さな地方政府を目指すという点で、ネオリベラリズム的な特徴が明白に現れている。これらのような発言や公約への支持が橋下への投票につながっているとするならば、ここでの結果は予想されたとおりであるといえる。

それでは、一般に言われるようなポピュリズム的指向とネオリベラリズム的指向との間の関連は、大阪府の有権者においても見いだせるのか。これを明らかにするために、重回帰分析を行う。従属変数はポピュリズム的指向の程度であり、ここで作成した指標をそのまま用いる。ネオリベラリズム的指向に関する独立変数としては、「所得の平等」「政府の大きさ」「社会での競争」に関する質問への回答を使用する。これらがポピュリズム的指向に対して正の影響を及ぼしているかどうかが、ここでの最も大きな関心となる[15]。

その他に、自分の暮らし向きについての評価を、独立変数として分析に投入する。暮らし向きが悪くなっていると認知している人ほど、政治家や役所への不信が強くなっていると予想されるからである。具体的には、「自分の生活を全体として考えた場合、どういう感じを今お持ちですか」との質問に対する回答に対して、「非常によい」に1ポイント、「まあよい」に2ポイント、「よいか、悪いか、どちらともいえない」に3ポイント「あまりよくない」に4ポイント、「非常に悪い」に5ポイントを割り当てた。この変数の係数の符号は、負になると予想される。これらに加えて、コントロール変数として、性別(男性を1、女性を0とするダミー変数)、年齢、学歴(中卒を1ポイント、高卒を2ポイント、高専・短大・専修学校卒を3ポイント、大卒以上を4ポイント)、居住地(政令指定都市である大阪市および堺市在住の場合は1、それ以外は0とするダミー変数)を投入した。

OLSを用いた分析の結果は表8で示した[16]。回帰式自体は1パーセント未満の水準で有意であるが、決定係数は0.1を切っている。このことに留意した上で、結果を検討する。まず、年齢が上がるほど公的機関への信頼は高まる傾向がある。すなわち、ポピュリズム的指向は低くなる。また、政令市居住者は他の市町村の居住者に比べて、公的機関への信頼が低くなるという傾向が見いだされた。自分の暮らし向きに関する変数については、その係数の符号が負であることは予想どおりであった。

**表8** ポピュリスト的指向を従属変数とするOLSの結果

| 独立変数 | B | 標準誤差 |
|---|---|---|
| 所得の平等 | .065 | .056 |
| 政府の役割 | -.033 | .046 |
| 社会での競争 | .051 | .062 |
| 自分の暮らし向き | .819 ** | .103 |
| 性別 | .183 | .219 |
| 年齢 | -.017 * | .007 |
| 学歴 | .066 | .114 |
| 政令市居住 | .741 ** | .204 |
| 定数 | 15.587 ** | .822 |
| N | 748 | |
| F値 | 11.234 ** | |
| 調整済み $R^2$ | .072 | |

* $p < .05$, ** $P < .01$

15) ネオリベラリズム的指向についての3つの変数の間には、1パーセントおよび5パーセント水準で有意な相関が存在したが、相関係数自体は0.10から0.35(ケンドールの順位相関係数)と大きくはなかった。共線性の診断によっても、これらの変数を同時に分析に投入することには問題がないことを確かめている。

16) 従属変数であるポピュリズム的指向は、8から24までの整数の値をとる。そのため、負の二項分布回帰を用いた分析も行ったが、OLSを用いた結果と違いはほとんどなかった。

注目すべきは、ネオリベラリズム的指向についての3つの変数である。「所得の平等」と「競争」については係数の符号は予想どおり正であったが、「政府の大きさ」のそれは逆に負であった。しかも、3つともポピュリズム的指向に対して有意な影響を及ぼしていない。大嶽(2003：124)は小泉的(日本的)ポピュリズムの特徴の1つとして、ポピュリズムとネオリベラリズムとが必ずしも体系的に結びついていないことをあげている。ここでの結果はこの見方を補強するものである。

## 7．投票行動の規定要因に関する重回帰分析

以上、府知事選における投票行動とそれに影響を及ぼしたと考えられる諸要因を、基本的に2変数の関係で検討してきた。本節においては、それら諸要因が投票に及ぼす影響を、重回帰分析の手法を用いてより厳密な形で検証する。

従属変数は、府知事選における投票先である。橋下、熊谷、梅田のいずれかに投票したと回答したサンプルのみを分析対象とし、杉浦清一および高橋正明へ投票したもの(あわせて7サンプル)、そしてだれに投票したか忘れたと回答したもの(27サンプル)については分析から除外した。

特に重要な独立変数は、有権者のポピュリズム的指向およびネオリベラリズム的指向である。前節における分析結果によって、これら2つは必ずしも密接な関連を持っているとはいえないことが明らかになったため、それぞれ別の独立変数として分析に用いる。いずれも、前節における指標(ネオリベラリズム的指向については、「所得の平等」「政府の大きさ」「社会での競争」の3つ)をそのまま用いる。橋下への投票に関して、期待される係数の符号は、どちらも正(ポピュリズム的指向が強まるほど、またネオリベラリズム的指向が強まるほど、橋下へ投票する確率は高くなる)である。

これ以外の投票行動に影響を及ぼしている要因についても考慮する必要がある。そこで、「あなたは候補者を選ぶ時、どういう点を重く見て投票する人を決





めたのですか」との質問に対する回答(複数回答)を用いて、主成分分析を行った。回答は「候補者の政策や主張を考えて」「候補者の人柄を考えて」「候補者を推薦・支持した政党を考えて」「テレビや新聞、雑誌などを通じて、なんとなく親しみを感じているから」「家族や知人にすすめられたから」の5つであり、それぞれを選択した場合を1、そうでない場合を0とするダミー変数として扱っている。その結果、固有値が1以上の基準で3つの主成分が抽出された(表9参照)。第1主成分は「候補者のイメージによって投票」、第2主成分は「候補者の政策によって投票」、第3主成分は「家族や知人にすすめられて投票」と、それぞれ解釈できる。これらの主成分得点を、投票先の決定に際して重視した要因に関する変数として分析に加える。

それ以外の独立変数は、以下のとおりである。

支持政党……「ふだんの支持政党」を基にした、「自民党支持」「民主党支持」「公明党支持」「社民党支持」「共産党支持」「国民新党・その他の政党支持」の6つのダミー変数(参照基準は「支持政党なし・わからない」)[17]。

**表9**　成分行列

| | 成分 | | |
|---|---|---|---|
| | 1 | 2 | 3 |
| 政策や主張を考えて投票 | .207 | **.850** | -.118 |
| 候補者の人柄を考えて投票 | **.710** | -.009 | -.165 |
| 政党を考えて投票 | -.571 | -.277 | -.352 |
| マスコミをつうじて親しみを感じて投票 | **.626** | -.523 | -.012 |
| 家族や知人にすすめられたから投票 | -.056 | -.005 | **.927** |

17) 先述の「固い」支持政党を用いた分析も行ったが、結果は本文に示したものと違いはなかった。

自分の暮らし向きについての評価……「自分の生活を全体として考えた場合、どういう感じを今お持ちですか」との質問に対する回答について、「非常によい」に1ポイント、「まあよい」に2ポイント、「よいか、悪いか、どちらともいえない」に3ポイント、「あまりよくない」に4ポイント、「非常に悪い」に5ポイントをそれぞれ割り当て。

個人的属性……性別(男性を1、女性を0とするダミー変数)、年齢、学歴(中卒を1ポイント、高卒を2ポイント、高専・短大・専修学校卒を3ポイント、大卒以上を4ポイント)、居住地(政令指定都市である大阪市および堺市在住の場合は1、それ以外は0とするダミー変数)。

表10は多項ロジット回帰分析の結果である[18]。熊谷への投票を参照カテゴリーとしている。ここでは橋下への投票との比較にのみ焦点を合わせて検討していく。

**表10** 投票先を従属変数とする多項ロジット回帰分析の結果

| 独立変数 | 橋下　徹 | 梅田章二 |
|---|---|---|
| ポピュリズム的指向 | −.035<br>(.038) | .053<br>(.055) |
| ネオリベラリズム的指向 | | |
| 所得の平等 | .047<br>(.066) | −.006<br>(.092) |
| 政府の大きさ | −.010<br>(.052) | .051<br>(.075) |
| 社会での競争 | .011<br>(.072) | .013<br>(.101) |
| 投票で重視した点 | | |
| 候補者のイメージ | .896 ***<br>(.141) | −.192<br>(.228) |
| 政策 | −0.215 *<br>(.126) | .296<br>(.199) |

18) Hausman の検定により、IIA の前提が保たれていることを確かめた。





| 独立変数 | 橋下　徹 | 梅田章二 |
|---|---|---|
| 家族・知人からのすすめ | −.049<br>(.107) | −.187<br>(.163) |
| 自分の暮らし向き | −.235 **<br>(.118) | .167<br>(.153) |
| 支持政党(参照基準：支持政党なし・わからない) | | |
| 自民 | 1.836 ***<br>(.371) | −.690<br>(.714) |
| 民主 | −.997 ***<br>(.279) | −1.569 ***<br>(.447) |
| 公明 | 1.441 **<br>(.725) | −33.246<br>(1.20e+07) |
| 社民 | −.791<br>(.958) | −.390<br>(1.248) |
| 共産 | −.270<br>(.643) | 1.832 ***<br>(.541) |
| 国民新党・その他 | −.920<br>.975 | −.316<br>(1.268) |
| 個人的属性 | | |
| 性別 | −.000<br>(.258) | −.060<br>(.361) |
| 年齢 | −.039 ***<br>(.008) | −.027 **<br>(.013) |
| 学歴 | −.292 **<br>(.137) | −.420 **<br>(.187) |
| 政令市居住 | .170<br>(.240) | .043<br>(.341) |
| 定数 | 4.450 ***<br>(1.203) | .117<br>1.715 |
| N | 577 | |
| $\chi^2$ (38) | 292.13*** | |
| Pseudo $R^2$ | .275 | |

参照カテゴリーは熊谷への投票。括弧内は標準誤差。
* p < .10, ** P < .05, *** P < .001

まず支持政党について見れば、支持政党なしと比べて、自民党支持者は熊谷よりも橋下に、そして民主党支持者は熊谷に投票する確率が有意に高くなっている。これらは予想される結果である。また、暮らし向きが悪いと認知している人ほど、熊谷と比較して橋下に投票する確率は低くなる。個人的属性に関する変数に目を向ければ、年齢が高いほど、そして学歴が高いほど、橋下よりも熊谷に投票する人が多くなる。これらは、2変数関係に注目した先の分析結果を裏付けている。投票先の決定に際して重視した要因については、「候補者のイメージによって投票」が1パーセント未満の水準で、そして「候補者の政策によって投票」が10パーセント水準でそれぞれ有意となった。候補者のイメージを重視した人は、熊谷よりも橋下に投票する人が多くなる。一方、政策を重視した人は、橋下よりも熊谷に投票する確率が高いことになる。候補者のイメージを重視する有権者は、マスメディアを通じて得た親しみやすさや人柄を評価して、橋下に投票する傾向があったのだろう。一方、政策を重視する有権者は、橋下よりも熊谷の政策をより高く評価したというよりも、「有名人」あるいは「タレント候補」を拒否して熊谷に投票した可能性がある。

次に、ここでの関心の中心であるポピュリズム的指向およびネオリベラリズム的指向が投票に及ぼす影響について検討する。橋下への投票に関して、ポピュリズム的指向の係数は負であった。ポピュリズム的指向が弱いほど、熊谷よりも橋下に投票する確率が高いことになる。これは予想に反する結果であるが、そもそも10パーセント水準においても有意ではない。ネオリベラリズム的指向に関する3つの変数についてみれば、「所得の平等」と「社会での競争」の係数の符号はいずれも正であり予想されたとおりであったが、政府の大きさでは負となっている。だが、これらについてもすべて有意な影響を及ぼしていなかった。2変数の分析によっては見いだせたネオリベラリズム的指向と橋下への投票との結びつきは、確かめられなかった。このように、ポピュリズム的指向およびネオリベラリズム的指向の強さは、橋下への投票を促していたとはいえないことになる[19]。

19) 結果は示さないが、梅田への投票を参照カテゴリーとする分析でも、ポピュリズム的指向およびネオリベラリズム的指向に関するすべての変数は、10パーセント水準でも有意な影響を及ぼしていなかった。係数の符号は、ポピュリズム的指向に関する変数で負、「所得の平等」で正、「政府の大きさ」および「社会での競争」で負であった。





## 8. おわりに

2008年大阪府知事選に関する有権者調査から明らかになったのは、以下のことである。第1に、現在におけるポピュリズムの特徴の一つといわれるネオリベラリズムとの結びつきは、有権者の意識には見いだせなかった。大嶽(2003)は日本でポピュリズムとネオリベラリズムとが結びつきにくい理由として、1990年代に政治腐敗が改革の主たる目標となったことによってネオリベラリズムの体系的思想とのつながりが弱くなり、素朴なムダや浪費の排除がポピュリズムの中心課題となったことをあげている(p.124.)。ただし、大阪府知事選に関して、このことを厳密に確かめるためのデータは持ち合わせていない。

第2に、有権者のポピュリズム的指向およびネオリベラリズム的指向のどちらも、橋下への投票を促してはいなかった。小泉と橋下の類似性から予想されたポピュリズムと投票との関連は、見いだされなかったことになる。

小泉改革の成果については、現在見直しを求める声も高まりつつある。だが、このような状況とここでの分析結果を合わせて、ポピュリズム退潮の兆しが見えると単純に結論付けることはできない。本稿ではデータ上の制約から公的機関への信頼度をポピュリズム的指向の指標として用いたが、これが方法論的に見て適切であったかどうかについては議論の余地があるだろう。ポピュリズム概念の多義性を踏まえた上で、より適切な指標の開発が必要である。

また、仮にポピュリズムに対する共感が弱まってきているとしても、それは必ずしも有権者が政策を基にして投票先を選んでいることを意味しない。すでに見たように、候補者のイメージを重視する人ほど橋下へ投票する確率が高くなっている。

もっとも、2008年府知事選では候補者はすべて新人であり、首長自身の過去の業績は投票決定の際に考慮すべき要因とはならなかった。我が国でも、業績評価投票の重要性は高まりつつあるとの指摘もなされている(平野 2005)。次回の府知事選挙で現職の橋下が再び立候補すれば、そのときには有権者が知事としての実績を評価して、それを投票に結びつけることができる機会が生まれる。ポピュリズム的心情に突き動かされた投票がなされているのか、それとも業績評価投票が一般的になってきているのかについては、そこで再検証がなされる必要がある。

**《引用文献》**


池田謙一(2004)「2001年参議院選挙と『小泉効果』」『選挙研究』No.19、29-50ページ。

池田謙一(2007)『政治のリアリティと社会心理――平成小泉政治のダイナミックス――』木鐸社。

石澤靖治(2008)「"橋下流"は小泉政権の手法と同じ」『日経グローカル』No.106、16ページ。

一ノ宮美成(2008)『橋下「大阪改革」の正体』講談社。

内山融(2007)「小泉政権――『バトスの首相』は何を変えたのか」中央公論新社。

大嶽秀夫(2003)『日本型ポピュリズム――政治への期待と幻滅――』中央公論新社。

大嶽秀夫(2006)『小泉純一郎 ポピュリズムの研究――その戦略と手法』東洋経済新報社。

蒲島郁夫/ジル・スティール(2008)サミュエル・ポプキン/蒲島郁夫/谷口将紀編『政治空間の変容と政策革新5:メディアが変える政治』東京大学出版会、所収、175-206ページ。

小林良彰(2008)『制度改革以降の日本型民主主義――選挙行動における連続と変化』木鐸社。

財団法人明るい選挙推進協会(2008)『第21回参議院議員通常選挙の実態――調査結果の概要――』http://www.akaruisenkyo.or.jp/066search/index.html〈2009年2月23日にアクセス〉

産経新聞大阪社会部編(2009)『橋下徹研究』日刊工業新聞社。

谷口将紀・谷口尚子(2008)「インターネット調査の可能性――東京大学・朝日新聞社共同世論調査との比較――」『日本政治研究』第5巻、第1・2合併号、pp.222-233.

平野浩「小泉内閣下の国政選挙における業績評価投票」日本政治学会編『年報政治学2005-Ⅰ:市民社会における参加と代表』木鐸社、66-87ページ。

松本充豊(2008)「台湾の民主政治とポピュリズム――李登輝と陳水扁の政治戦略の比較」『レヴァイアサン』42号、59-78ページ。

丸山真央・松谷満・久保田滋・伊藤美登里・矢部拓也・田辺俊介・高木竜輔(2008)「日本型ポピュリズムの論理と信条――2007年東京都知事選における有権者の投票行動の分析――」『茨城大学地域総合研究所年報』No.41、pp.81-115.







三宅一郎(1989)『投票行動』東京大学出版会。

山田真裕(2005)「2004年参院選における自民党からの離反と小泉評価」日本政治学会編『年報政治学2005-Ⅰ:市民社会における参加と代表』木鐸社、88-105ページ。

「大阪再生のゆくえ――橋下改革は再建のモデルになるか」(2008)『日経グローカル』106号、pp.8-27.

Barr, Robert B. (2009) "Populists, Outsiders and Anti-Establishment Politics," *Party Politics*, Vol.15, No.1, pp.29-48.

Dillman, Don A., Jolene D. Smith, and Leah Melani Christian (2009) *Internet, Mail, and Mixed-Mode Surveys: The Tailored Design Method* (3rd. ed.), John Wiley & Sons.

Kabashima, I. and G. Steel (2007) "How Junichiro Koizumi seized the leadership of Japan's liberal democratic party," *Japanese Journal of Political Science*, Vol.8, No.3, pp.95-114.

Kitschelt, Herbert (1995) *The Radical Right in Western Europe: A Comparative Analysis*, The University of Michigan Press.

Weyland, Kurt (1999) "Neoliberal Populism in Latin America and Eastern Europe," *Comparative Politics*, Vol.31, No.4, pp.379-401.

## 資料：2008年大阪府知事選に関する有権者調査の結果概要

〈基本データ〉

性別

| (N) | | |
|---|---|---|
| 658 | 1 | 男性 |
| 581 | 2 | 女性 |

年齢

| (N) | | |
|---|---|---|
| 75 | 1 | 20才～24才 |
| 136 | 2 | 25才～29才 |
| 130 | 3 | 30才～34才 |
| 118 | 4 | 35才～39才 |
| 136 | 5 | 40才～44才 |
| 75 | 6 | 45才～49才 |
| 142 | 7 | 50才～54才 |
| 93 | 8 | 55才～59才 |
| 334 | 9 | 60才以上 |

職業

| | | |
|---|---|---|
| 23 | 1 | 公務員 |
| 34 | 2 | 経営者・役員 |
| 189 | 3 | 会社員(事務系) |
| 122 | 4 | 会社員(技術系) |
| 107 | 5 | 会社員(その他) |
| 113 | 6 | 自営業 |
| 31 | 7 | 自由業 |
| 272 | 8 | 専業主婦 |
| 106 | 9 | パート・アルバイト |
| 44 | 10 | 学生 |





| | | |
|---|---|---|
| 198 | 11 | その他 |

〈質問内容〉

Q1：あなたが現在お住まいの地域をお選びください。※大阪府以外にお住まいの方は、選択肢74「その他の都道府県」をお選びください。

| (N) | | |
|---|---|---|
| 18 | 1 | 池田市 |
| 15 | 2 | 泉大津市 |
| 5 | 3 | 泉佐野市 |
| 29 | 4 | 和泉市 |
| 46 | 5 | 茨木市 |
| 6 | 6 | 大阪狭山市 |
| 14 | 7 | 大阪市旭区 |
| 23 | 8 | 大阪市阿倍野区 |
| 15 | 9 | 大阪市生野区 |
| 21 | 10 | 大阪市北区 |
| 9 | 11 | 大阪市此花区 |
| 30 | 12 | 大阪市城東区 |
| 22 | 13 | 大阪市住之江区 |
| 35 | 14 | 大阪市住吉区 |
| 5 | 15 | 大阪市大正区 |
| 15 | 16 | 大阪市中央区 |
| 16 | 17 | 大阪市鶴見区 |
| 5 | 18 | 大阪市天王寺区 |
| 11 | 19 | 大阪市浪速区 |
| 16 | 20 | 大阪市西区 |
| 9 | 21 | 大阪市西成区 |
| 15 | 22 | 大阪市西淀川区 |
| 16 | 23 | 大阪市東住吉区 |
| 8 | 24 | 大阪市東成区 |
| 23 | 25 | 大阪市東淀川区 |

| | | |
|---|---|---|
| 21 | 26 | 大阪市平野区 |
| 7 | 27 | 大阪市福島区 |
| 6 | 28 | 大阪市港区 |
| 23 | 29 | 大阪市都島区 |
| 25 | 30 | 大阪市淀川区 |
| 6 | 31 | 貝塚市 |
| 12 | 32 | 柏原市 |
| 7 | 33 | 交野市 |
| 13 | 34 | 門真市 |
| 18 | 35 | 河内長野市 |
| 19 | 36 | 岸和田市 |
| 18 | 37 | 堺市北区 |
| 18 | 38 | 堺市堺区 |
| 11 | 39 | 堺市中区 |
| 22 | 40 | 堺市西区 |
| 14 | 41 | 堺市東区 |
| 26 | 42 | 堺市南区 |
| 3 | 43 | 堺市美原区 |
| 13 | 44 | 四條畷市 |
| 64 | 45 | 吹田市 |
| 8 | 46 | 摂津市 |
| 2 | 47 | 泉南郡熊取町 |
| 0 | 48 | 泉南郡田尻町 |
| 1 | 49 | 泉南郡岬町 |
| 6 | 50 | 泉南市 |
| 2 | 51 | 泉北郡忠岡町 |
| 7 | 52 | 高石市 |
| 61 | 53 | 高槻市 |
| 12 | 54 | 大東市 |
| 62 | 55 | 豊中市 |
| 6 | 56 | 豊能郡豊能町 |
| 3 | 57 | 豊能郡能勢町 |



| | | |
|---|---|---|
| 14 | 58 | 富田林市 |
| 33 | 59 | 寝屋川市 |
| 12 | 60 | 羽曳野市 |
| 6 | 61 | 阪南市 |
| 57 | 62 | 東大阪市 |
| 75 | 63 | 枚方市 |
| 12 | 64 | 藤井寺市 |
| 13 | 65 | 松原市 |
| 3 | 66 | 三島郡島本町 |
| 0 | 67 | 南河内郡河南町 |
| 3 | 68 | 南河内郡太子町 |
| 0 | 69 | 南河内郡千早赤阪村 |
| 20 | 70 | 箕面市 |
| 19 | 71 | 守口市 |
| 32 | 72 | 八尾市 |
| 6 | 73 | 大阪府その他 |
| 0 | 74 | その他の都道府県 |

Ｑ２：あなたの、最終学歴をお教えください。（在学中・中退は卒業とみなします）

| (N) | | |
|---|---|---|
| 31 | 1 | 中学校卒 |
| 375 | 2 | 高等学校卒 |
| 262 | 3 | 高専・短大・専修学校卒 |
| 511 | 4 | 大学（４年制）卒 |
| 34 | 5 | 大学院（修士・博士）卒 |
| 16 | 6 | それ以外 |
| 10 | 7 | 答えたくない |

Ｑ３：あなたは、この市（区・町・村）【Ｑ１の選択内容】に何年ぐらい住んでいますか。

| (N) | | |
|---|---|---|
| 138 | 1 | ３年未満 |
| 222 | 2 | ３年以上10年未満 |

| | | |
|---|---|---|
| 221 | 3 | 10年以上20年未満 |
| 656 | 4 | 20年以上 |
| 2 | 5 | わからない |

Ｑ４：今回(2008年１月27日実施)の大阪府知事選挙について、あなた自身はどれくらい関心をもちましたか。(ひとつだけ)

(N)

| | | |
|---|---|---|
| 570 | 1 | 非常に関心をもった |
| 572 | 2 | 多少は関心をもった |
| 72 | 3 | ほとんど関心をもたなかった |
| 24 | 4 | まったく関心をもたなかった |
| 1 | 5 | わからない |

Ｑ５：今回(2008年１月27日実施)の大阪府知事選挙では、あなたはどのような問題が重要であると思いましたか。この中にありましたら、いくつでも選んでください。(いくつでも)

(N)

| | | |
|---|---|---|
| 760 | 1 | 景気 |
| 448 | 2 | 雇用対策 |
| 424 | 3 | 中小企業対策 |
| 897 | 4 | 財政再建 |
| 419 | 5 | 教育 |
| 451 | 6 | 子育て支援 |
| 89 | 7 | 芸術・文化の振興 |
| 231 | 8 | 災害対策 |
| 419 | 9 | 環境問題 |
| 533 | 10 | 高齢者問題 |
| 269 | 11 | まちづくり |
| 314 | 12 | 産業の振興 |
| 616 | 13 | 医療問題 |
| 514 | 14 | 福祉問題 |
| 41 | 15 | その他 |



Ｑ６：あなたは、今回(2008年１月27日実施)の大阪府知事選挙で、投票しましたか、しませんでしたか。

(N)

| | | |
|---|---|---|
| 936 | 1 | 投票した |
| 303 | 2 | 投票しなかった |

Ｑ７：あなたが大阪府知事選挙で投票しなかったのはなぜですか。最もあてはまる理由を次のうちから１つ選んでください。

(N)

| | | |
|---|---|---|
| 80 | 1 | 用事があったから |
| 15 | 2 | 選挙に関心がなかったから |
| 61 | 3 | 投票したい候補者がいなかったから |
| 34 | 4 | 体の調子が悪かったから |
| 18 | 5 | 面倒だったから |
| 12 | 6 | 候補者の人物や政策について、よくわからなかったから |
| 41 | 7 | だれが知事になっても変わらないと思ったから |
| 14 | 8 | 選挙権がなかった |
| 2 | 9 | わからない |
| 26 | 10 | その他 |

Ｑ８：あなたは、どの候補者に投票しましたか。

(N)

| | | |
|---|---|---|
| 528 | 1 | 橋下徹 |
| 275 | 2 | 熊谷貞俊 |
| 99 | 3 | 梅田章二 |
| 3 | 4 | 杉浦清一 |
| 4 | 5 | 高橋正明 |
| 27 | 6 | 忘れた |

Ｑ９：あなたは候補者を選ぶ時、どういう点を重くみて投票する人を決めたのですか。この中から選んでください。(いくつでも)

(N)

| | | |
|---|---|---|
| 595 | 1 | 候補者の政策や主張を考えて |
| 424 | 2 | 候補者の人柄を考えて |
| 219 | 3 | 候補者を推薦・支持した政党を考えて |
| 140 | 4 | テレビや新聞、雑誌などを通じて、なんとなく親しみを感じているから |
| 18 | 5 | 家族や知人にすすめられたから |
| 60 | 6 | どれとはいえない |
| 75 | 7 | その他 |
| 1 | 8 | わからない |

Q10：前回の4年前(2004年)に行われた大阪府知事選挙では、あなたはどの候補者に投票しましたか。

| (N) | | |
|---|---|---|
| 319 | 1 | 太田房江(自民・民主・公明・社民推薦) |
| 126 | 2 | 梅田章二(共産推薦) |
| 77 | 3 | 江本孟紀 |
| 5 | 4 | 西村重蔵 |
| 0 | 5 | 小山広明 |
| 202 | 6 | だれに投票したか忘れた |
| 362 | 7 | 投票に行かなかった |
| 86 | 8 | 2004年の府知事選の時は大阪府民ではなく、投票できなかった |
| 62 | 9 | 選挙権がなかった |

Q11：今回の大阪府知事選で、候補者が発表したマニフェスト(知事になった場合の公約)についておききします。あなたはどの候補者のマニフェストを目にしましたか。そのマニフェストを目にした候補者の名前を、すべて選んでください。(いくつでも)

| (N) | | |
|---|---|---|
| 655 | 1 | 橋下徹 |
| 498 | 2 | 熊谷貞俊 |
| 400 | 3 | 梅田章二 |
| 44 | 4 | 杉浦清一 |
| 42 | 5 | 高橋正明 |





| | | |
|---|---|---|
| 78 | 6 | だれのものかは忘れたが、マニフェストを目にした |
| 399 | 7 | どの候補者のマニフェストも目にしなかった |
| 58 | 8 | マニフェストを目にしたか、しなかったかは忘れた |

Q12：あなたが今回の府知事選でだれに投票するかを決めるときに、マニフェストはどれだけ役に立ちましたか。次のうちから1つだけ選んでください。

| (N) | | |
|---|---|---|
| 82 | 1 | 非常に役に立った |
| 336 | 2 | まあまあ役に立った |
| 164 | 3 | どちらともいえない |
| 36 | 4 | あまり役に立たなかった |
| 10 | 5 | まったく役に立たなかった |
| 0 | 6 | わからない |

Q13：あなた自身の生活についておききします。自分の生活を全体として考えた場合、「非常によい」「まあよい」「よいか、悪いか、どちらともいえない」「あまりよくない」「非常に悪い」のうち、どういう感じを今お持ちですか。次のうちから1つだけ選んでください。

| (N) | | |
|---|---|---|
| 29 | 1 | 非常によい |
| 321 | 2 | まあよい |
| 410 | 3 | よいか、悪いか、どちらともいえない |
| 361 | 4 | あまりよくない |
| 115 | 5 | 非常に悪い |
| 3 | 6 | わからない |

Q14：自分の生活を全体として考えた場合、5年前(2003年)に比べて現在の状況はよくなっていると思いますか、それとも悪くなっていると思いますか。次のうちから1つだけ選んでください。

| (N) | | |
|---|---|---|
| 30 | 1 | 5年前に比べて現在の方が、非常によくなっている |
| 168 | 2 | 5年前に比べて現在の方が、少しよくなっている |

| | | |
|---|---|---|
| 306 | 3 | 5年前と現在とをくらべて、変わらない |
| 386 | 4 | 5年前に比べて現在の方が、少し悪くなっている |
| 291 | 5 | 5年前に比べて現在の方が、かなり悪くなっている |
| 27 | 6 | どれにも当たらない |
| 31 | 7 | わからない |

Q15：大阪府のことについておききします。大阪府の状況を全体として考えた場合、「非常によい」「まあよい」「よいか、悪いか、どちらともいえない」「あまりよくない」「非常に悪い」のうち、どういう感じを今お持ちですか。次のうちから1つだけ選んでください。

| (N) | | |
|---|---|---|
| 2 | 1 | 非常によい |
| 30 | 2 | まあよい |
| 193 | 3 | よいか、悪いか、どちらともいえない |
| 533 | 4 | あまりよくない |
| 467 | 5 | 非常に悪い |
| 14 | 6 | わからない |

Q16：大阪府の状況を全体として考えた場合、5年前(2003年)に比べて現在の状況はよくなっていると思いますか、それとも悪くなっていると思いますか。次のうちから1つだけ選んでください。

| (N) | | |
|---|---|---|
| 2 | 1 | 5年前に比べて現在の方が、非常によくなっている |
| 24 | 2 | 5年前に比べて現在の方が、少しよくなっている |
| 207 | 3 | 5年前と現在とをくらべて、変わらない |
| 375 | 4 | 5年前に比べて現在の方が、少し悪くなっている |
| 463 | 5 | 5年前に比べて現在の方が、かなり悪くなっている |
| 19 | 6 | どれにも当たらない |
| 61 | 7 | 5年前は大阪府民ではなかった |
| 88 | 8 | わからない |

Q17：自分の住んでいる市(区・町・村)のことについておききします。自分の住んでいる市(区・町・村)の状況を全体として考えた場合、「非常によい」「まあよい」「よいか、悪いか、どちらともいえない」「あまりよくない」「非常に悪い」のうち、どういう感じを今お持ちですか。次のうちから1つだけ選んでください。

| (N) | | |
|---|---|---|
| 9 | 1 | 非常によい |
| 168 | 2 | まあよい |
| 439 | 3 | よいか、悪いか、どちらともいえない |
| 443 | 4 | あまりよくない |
| 160 | 5 | 非常に悪い |
| 20 | 6 | わからない |

Q18：自分の住んでいる市(区・町・村)の状況を全体として考えた場合、5年前(2003年)に比べて現在の状況はよくなっていると思いますか、それとも悪くなっていると思いますか。次のうちから1つだけ選んでください。

| (N) | | |
|---|---|---|
| 2 | 1 | 5年前に比べて現在の方が、非常によくなっている |
| 65 | 2 | 5年前に比べて現在の方が、少しよくなっている |
| 360 | 3 | 5年前と現在とをくらべて、変わらない |
| 354 | 4 | 5年前に比べて現在の方が、少し悪くなっている |
| 211 | 5 | 5年前に比べて現在の方が、かなり悪くなっている |
| 28 | 6 | どれにも当たらない |
| 132 | 7 | 5年前は現在住んでいる市(区・町・村)の住民ではなかった |
| 87 | 8 | わからない |

Q19：日本のことについておききします。日本の状況を全体として考えた場合、「非常によい」「まあよい」「よいか、悪いか、どちらともいえない」「あまりよくない」「非常に悪い」のうち、どういう感じを今お持ちですか。次のうちから1つだけ選んでください。

| (N) | | |
|---|---|---|
| 1 | 1 | 非常によい |
| 29 | 2 | まあよい |
| 191 | 3 | よいか、悪いか、どちらともいえない |

| | | |
|---|---|---|
| 593 | 4 | あまりよくない |
| 419 | 5 | 非常に悪い |
| 6 | 6 | わからない |

Q20：日本の状況を全体として考えた場合、5年前(2003年)に比べて現在の状況はよくなっていると思いますか、それとも悪くなっていると思いますか。次のうちから1つだけ選んでください。

(N)

| | | |
|---|---|---|
| 5 | 1 | 5年前に比べて現在の方が、非常によくなっている |
| 54 | 2 | 5年前に比べて現在の方が、少しよくなっている |
| 180 | 3 | 5年前と現在とをくらべて、変わらない |
| 425 | 4 | 5年前に比べて現在の方が、少し悪くなっている |
| 492 | 5 | 5年前に比べて現在の方が、かなり悪くなっている |
| 19 | 6 | どれにも当たらない |
| 64 | 7 | わからない |

Q21：以下の(1)～(13)のような、大阪府が支出する領域があります。それぞれの領域について、大阪府の支出を増やした方がよいのか、あるいは減らした方がよいのかについて、あなたの意見をお聞かせください。「支出を増やした方がよい」とする場合には、そのための負担が増える可能性があることを忘れずにお答えください。

〈子育て・少子化対策〉

(N)

| | | |
|---|---|---|
| 182 | 1 | 今よりもっと大きく支出を増やすべき |
| 604 | 2 | 今より支出を増やすべき |
| 323 | 3 | 今と同じぐらいの支出でよい |
| 45 | 4 | 今より支出を減らすべき |
| 18 | 5 | 今よりもっと大きく支出を減らすべき |
| 67 | 6 | わからない |

〈健康対策〉

(N)

| | | |
|---|---|---|
| 100 | 1 | 今よりもっと大きく支出を増やすべき |
| 465 | 2 | 今より支出を増やすべき |
| 539 | 3 | 今と同じぐらいの支出でよい |
| 61 | 4 | 今より支出を減らすべき |
| 15 | 5 | 今よりもっと大きく支出を減らすべき |
| 59 | 6 | わからない |

〈教育の充実〉

(N)

| | | |
|---|---|---|
| 129 | 1 | 今よりもっと大きく支出を増やすべき |
| 541 | 2 | 今より支出を増やすべき |
| 455 | 3 | 今と同じぐらいの支出でよい |
| 37 | 4 | 今より支出を減らすべき |
| 17 | 5 | 今よりもっと大きく支出を減らすべき |
| 60 | 6 | わからない |

〈若者の自立・就労支援〉

(N)

| | | |
|---|---|---|
| 79 | 1 | 今よりもっと大きく支出を増やすべき |
| 393 | 2 | 今より支出を増やすべき |
| 521 | 3 | 今と同じぐらいの支出でよい |
| 136 | 4 | 今より支出を減らすべき |
| 50 | 5 | 今よりもっと大きく支出を減らすべき |
| 60 | 6 | わからない |

〈中小企業の活力再生〉

(N)

| | | |
|---|---|---|
| 189 | 1 | 今よりもっと大きく支出を増やすべき |
| 601 | 2 | 今より支出を増やすべき |
| 337 | 3 | 今と同じぐらいの支出でよい |
| 34 | 4 | 今より支出を減らすべき |
| 13 | 5 | 今よりもっと大きく支出を減らすべき |

| | | |
|---|---|---|
| 65 | 6 | わからない |

〈新しい産業分野の創出・育成〉

| (N) | | |
|---|---|---|
| 127 | 1 | 今よりもっと大きく支出を増やすべき |
| 409 | 2 | 今より支出を増やすべき |
| 486 | 3 | 今と同じぐらいの支出でよい |
| 103 | 4 | 今より支出を減らすべき |
| 35 | 5 | 今よりもっと大きく支出を減らすべき |
| 79 | 6 | わからない |

〈犯罪の抑止〉

| (N) | | |
|---|---|---|
| 202 | 1 | 今よりもっと大きく支出を増やすべき |
| 538 | 2 | 今より支出を増やすべき |
| 382 | 3 | 今と同じぐらいの支出でよい |
| 48 | 4 | 今より支出を減らすべき |
| 10 | 5 | 今よりもっと大きく支出を減らすべき |
| 59 | 6 | わからない |

〈災害対策〉

| (N) | | |
|---|---|---|
| 144 | 1 | 今よりもっと大きく支出を増やすべき |
| 466 | 2 | 今より支出を増やすべき |
| 507 | 3 | 今と同じぐらいの支出でよい |
| 53 | 4 | 今より支出を減らすべき |
| 14 | 5 | 今よりもっと大きく支出を減らすべき |
| 55 | 6 | わからない |

〈環境対策の推進〉

| (N) | | |
|---|---|---|
| 128 | 1 | 今よりもっと大きく支出を増やすべき |
| 480 | 2 | 今より支出を増やすべき |
| 482 | 3 | 今と同じぐらいの支出でよい |
| 69 | 4 | 今より支出を減らすべき |
| 25 | 5 | 今よりもっと大きく支出を減らすべき |
| 55 | 6 | わからない |

〈雇用の促進〉

| (N) | | |
|---|---|---|
| 170 | 1 | 今よりもっと大きく支出を増やすべき |
| 529 | 2 | 今より支出を増やすべき |
| 417 | 3 | 今と同じぐらいの支出でよい |
| 54 | 4 | 今より支出を減らすべき |
| 8 | 5 | 今よりもっと大きく支出を減らすべき |
| 61 | 6 | わからない |

〈住環境の整備〉

| (N) | | |
|---|---|---|
| 76 | 1 | 今よりもっと大きく支出を増やすべき |
| 306 | 2 | 今より支出を増やすべき |
| 592 | 3 | 今と同じぐらいの支出でよい |
| 150 | 4 | 今より支出を減らすべき |
| 49 | 5 | 今よりもっと大きく支出を減らすべき |
| 66 | 6 | わからない |

〈交通網の整備〉

| (N) | | |
|---|---|---|
| 58 | 1 | 今よりもっと大きく支出を増やすべき |
| 156 | 2 | 今より支出を増やすべき |
| 511 | 3 | 今と同じぐらいの支出でよい |
| 317 | 4 | 今より支出を減らすべき |
| 144 | 5 | 今よりもっと大きく支出を減らすべき |
| 53 | 6 | わからない |

〈貧困問題への対策〉

| (N) | | |
|---|---|---|
| 136 | 1 | 今よりもっと大きく支出を増やすべき |
| 415 | 2 | 今より支出を増やすべき |
| 487 | 3 | 今と同じぐらいの支出でよい |
| 103 | 4 | 今より支出を減らすべき |
| 32 | 5 | 今よりもっと大きく支出を減らすべき |
| 66 | 6 | わからない |

Q22：所得の平等について、あなたの考えを教えてください。あなたの考えは、この中の番号のうちで、どれに一番近いですか。

●「1」は左の意見にまったく賛成であることを示します。

●「10」は右の意見にまったく賛成であることを示します。

もしあなたの考えがその間にあるなら、それに最も近い番号を1つだけ選んでください。わからないときは、右にある「99」を選んでください。

| (N) | | |
|---|---|---|
| 34 | 1 | 人々の所得は、より平等であるべきだ |
| 11 | 2 | ← |
| 29 | 3 | ← |
| 52 | 4 | ← |
| 72 | 5 | ← |
| 170 | 6 | → |
| 305 | 7 | → |
| 241 | 8 | → |
| 70 | 9 | → |
| 222 | 10 | 個人の努力がより報われるようにするために、人によって所得に差があっても当然だ |
| 33 | 99 | わからない |

Q23：政府の役割について、あなたの考えを教えてください。あなたの考えは、この中の番号のうちで、どれに一番近いですか。

●「1」は左の意見にまったく賛成であることを示します。





●「10」は右の意見にまったく賛成であることを示します。

もしあなたの考えがその間にあるなら、それに最も近い番号を1つだけ選んでください。わからないときは、右にある「99」を選んでください。

| (N) | | |
|---|---|---|
| 110 | 1 | 人にとって必要なものを与えるために、政府はより大きな役割を果たすべきである |
| 54 | 2 | ← |
| 152 | 3 | ← |
| 180 | 4 | ← |
| 171 | 5 | ← |
| 182 | 6 | → |
| 149 | 7 | → |
| 100 | 8 | → |
| 30 | 9 | → |
| 56 | 10 | 人にとって必要なものは、個人が自分自身で手に入れるようにすべきである |
| 55 | 99 | わからない |

Q24：社会における競争について、あなたの考えを教えてください。あなたの考えは、この中の番号のうちで、どれに一番近いですか。

●「1」は左の意見にまったく賛成であることを示します。

●「10」は右の意見にまったく賛成であることを示します。

もしあなたの考えがその間にあるなら、それに最も近い番号を1つだけ選んでください。わからないときは、右にある「99」を選んでください。

| (N) | | |
|---|---|---|
| 148 | 1 | 競争があることは、社会にとって好ましい |
| 82 | 2 | ← |
| 303 | 3 | ← |
| 305 | 4 | ← |
| 192 | 5 | ← |
| 98 | 6 | → |
| 39 | 7 | → |

| | | |
|---|---|---|
| 18 | 8 | → |
| 6 | 9 | → |
| 15 | 10 | 競争は社会に悪い影響を与える |
| 33 | 99 | わからない |

Q25：地域に関わることを、だれが決めるのがよいかについて、あなたの考えを教えてください。あなたの考えは、この中の番号のうちで、どれに一番近いですか。

●「1」は左の意見にまったく賛成であることを示します。

●「10」は右の意見にまったく賛成であることを示します。

もしあなたの考えがその間にあるなら、それに最も近い番号を1つだけ選んでください。わからないときは、右にある「99」を選んでください。

| (N) | | |
|---|---|---|
| 182 | 1 | 地域に関わることについては、そこに住む人たちが自ら決めるべきである |
| 144 | 2 | ← |
| 283 | 3 | ← |
| 237 | 4 | ← |
| 199 | 5 | ← |
| 93 | 6 | → |
| 43 | 7 | → |
| 16 | 8 | → |
| 8 | 9 | → |
| 5 | 10 | 地域に関わることについては、首長(知事や市長など)や政治家に決定をまかせるべきである |
| 29 | 99 | わからない |

Q26：都道府県や市町村などの地方自治体の望ましい数について、あなたの考えを教えてください。あなたの考えは、この中の番号のうちで、どれに一番近いですか。

●「1」は左の意見にまったく賛成であることを示します。

●「10」は右の意見にまったく賛成であることを示します。

もしあなたの考えがその間にあるなら、それに最も近い番号を1つだけ選んでください。わからないときは、右にある「99」を選んでください。





| (N) | | |
|---|---|---|
| 17 | 1 | 現在の都道府県や市町村をさらに細かく分割して、地方自治体の数を今よりも増やすべきだ |
| 7 | 2 | ← |
| 30 | 3 | ← |
| 39 | 4 | ← |
| 135 | 5 | ← |
| 260 | 6 | → |
| 169 | 7 | → |
| 172 | 8 | → |
| 62 | 9 | → |
| 191 | 10 | 現在の都道府県や市町村の統合をすすめて、地方自治体の数を今よりも減らすべきだ |
| 157 | 99 | わからない |

Q27：あなたはふだん、どの政党を最も支持していますか。(ひとつだけ)

| (N) | | |
|---|---|---|
| 244 | 1 | 自民党 |
| 256 | 2 | 民主党 |
| 38 | 3 | 公明党 |
| 15 | 4 | 社民党 |
| 53 | 5 | 共産党 |
| 3 | 6 | 国民新党 |
| 9 | 7 | その他の政党 |
| 589 | 8 | 支持政党なし |
| 32 | 9 | わからない |

Q28：下にあげた最近の国政選挙で、あなたがどの政党(あるいはどの政党の候補者)に投票したかについて教えてください。

〈小選挙区(候補者個人に投票する)〉

(N)

| | | |
|---|---|---|
| 288 | 1 | 自民党 |
| 328 | 2 | 民主党 |
| 45 | 3 | 公明党 |
| 22 | 4 | 社民党 |
| 77 | 5 | 共産党 |
| 1 | 6 | 国民新党 |
| 1 | 7 | 新党日本 |
| 4 | 8 | その他の政党 |
| 33 | 9 | 無所属 |
| 183 | 10 | 忘れた |
| 214 | 11 | 投票に行かなかった |
| 43 | 12 | 選挙権がなかった |

〈比例ブロック(政党名で投票する)〉

| (N) | | |
|---|---|---|
| 277 | 1 | 自民党 |
| 342 | 2 | 民主党 |
| 45 | 3 | 公明党 |
| 27 | 4 | 社民党 |
| 85 | 5 | 共産党 |
| 3 | 6 | 国民新党 |
| 3 | 7 | 新党日本 |
| 3 | 8 | その他の政党 |
| 23 | 9 | 無所属 |
| 172 | 10 | 忘れた |
| 216 | 11 | 投票に行かなかった |
| 43 | 12 | 選挙権がなかった |

〈選挙区(候補者個人に投票する)〉

| (N) | | |
|---|---|---|
| 242 | 1 | 自民党 |
| 415 | 2 | 民主党 |





| | | |
|---|---|---|
| 49 | 3 | 公明党 |
| 23 | 4 | 社民党 |
| 80 | 5 | 共産党 |
| 3 | 6 | 国民新党 |
| 4 | 7 | 新党日本 |
| 3 | 8 | その他の政党 |
| 45 | 9 | 無所属 |
| 140 | 10 | 忘れた |
| 216 | 11 | 投票に行かなかった |
| 19 | 12 | 選挙権がなかった |

〈比例区(政党で投票する)〉

| (N) | | |
|---|---|---|
| 237 | 1 | 自民党 |
| 423 | 2 | 民主党 |
| 60 | 3 | 公明党 |
| 25 | 4 | 社民党 |
| 82 | 5 | 共産党 |
| 7 | 6 | 国民新党 |
| 11 | 7 | 新党日本 |
| 6 | 8 | その他の政党 |
| 30 | 9 | 無所属 |
| 133 | 10 | 忘れた |
| 216 | 11 | 投票に行かなかった |
| 19 | 12 | 選挙権がなかった |

Q29：あなたは次にあげるような組織や機関を、どのぐらい信用していますか。あなたの考えに最も近いものを、それぞれ1つずつ選んでください。

〈国の政府〉

| (N) | | |
|---|---|---|
| 7 | 1 | 非常に信頼している |

| | | |
|---|---|---|
| 234 | 2 | まあ信頼している |
| 590 | 3 | あまり信頼していない |
| 371 | 4 | まったく信頼していない |
| 37 | 5 | わからない |

〈国会〉

| (N) | | |
|---|---|---|
| 4 | 1 | 非常に信頼している |
| 167 | 2 | まあ信頼している |
| 604 | 3 | あまり信頼していない |
| 424 | 4 | まったく信頼していない |
| 40 | 5 | わからない |

〈大阪府庁〉

| (N) | | |
|---|---|---|
| 2 | 1 | 非常に信頼している |
| 175 | 2 | まあ信頼している |
| 613 | 3 | あまり信頼していない |
| 392 | 4 | まったく信頼していない |
| 57 | 5 | わからない |

〈大阪府議会〉

| (N) | | |
|---|---|---|
| 1 | 1 | 非常に信頼している |
| 142 | 2 | まあ信頼している |
| 586 | 3 | あまり信頼していない |
| 448 | 4 | まったく信頼していない |
| 62 | 5 | わからない |

〈自分の住んでいる市(町・村)の役所〉

| (N) | | |
|---|---|---|
| 10 | 1 | 非常に信頼している |





| | | |
|---|---|---|
| 370 | 2 | まあ信頼している |
| 578 | 3 | あまり信頼していない |
| 225 | 4 | まったく信頼していない |
| 56 | 5 | わからない |

〈自分の住んでいる市(町・村)の議会〉

| (N) | | |
|---|---|---|
| 10 | 1 | 非常に信頼している |
| 260 | 2 | まあ信頼している |
| 627 | 3 | あまり信頼していない |
| 269 | 4 | まったく信頼していない |
| 73 | 5 | わからない |

〈マスコミ〉

| (N) | | |
|---|---|---|
| 6 | 1 | 非常に信頼している |
| 207 | 2 | まあ信頼している |
| 674 | 3 | あまり信頼していない |
| 308 | 4 | まったく信頼していない |
| 44 | 5 | わからない |

〈警察〉

| (N) | | |
|---|---|---|
| 26 | 1 | 非常に信頼している |
| 487 | 2 | まあ信頼している |
| 525 | 3 | あまり信頼していない |
| 169 | 4 | まったく信頼していない |
| 32 | 5 | わからない |

〈労働組合〉

| (N) | | |
|---|---|---|
| 8 | 1 | 非常に信頼している |

| | | |
|---|---|---|
| 229 | 2 | まあ信頼している |
| 557 | 3 | あまり信頼していない |
| 291 | 4 | まったく信頼していない |
| 154 | 5 | わからない |

〈NPO（環境保護やまちづくりなどのための非営利組織）〉

| (N) | | |
|---|---|---|
| 23 | 1 | 非常に信頼している |
| 369 | 2 | まあ信頼している |
| 492 | 3 | あまり信頼していない |
| 227 | 4 | まったく信頼していない |
| 128 | 5 | わからない |

Q30：以下のそれぞれについて、全体で見てあなたはどのように評価しますか。あなたの考えに最も近いものを1つ選んでください。

〈2000年から2007年までの、太田房江知事の下での大阪府政について〉

| (N) | | |
|---|---|---|
| 4 | 1 | 高く評価できる |
| 113 | 2 | まあ評価できる |
| 313 | 3 | なんともいえない |
| 415 | 4 | あまり評価できない |
| 348 | 5 | まったく評価できない |
| 46 | 6 | わからない |

〈現在の福田康夫内閣について〉

| (N) | | |
|---|---|---|
| 4 | 1 | 高く評価できる |
| 61 | 2 | まあ評価できる |
| 351 | 3 | なんともいえない |
| 422 | 4 | あまり評価できない |
| 371 | 5 | まったく評価できない |
| 30 | 6 | わからない |